苫小牧市立中央図書館の自己評価並びに自己評価説明及び点検を踏まえ実施した図書館協議会委員による評価は以下のとおりです。

令和８年６月１５日
苫小牧市図書館協議会　会長　井村　友美

＜総評＞

令和７年度の苫小牧市立中央図書館の運営については、乳幼児から高齢者まで幅広い世代を対象とした読書推進活動や、地域と連携した事業、図書館外へ積極的に出向くアウトリーチ活動など、多様な取組が実施されており、全体として質の高い図書館運営が行われていると評価できます。

特に、「赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば」など、乳幼児期から本に親しむ機会づくりについては、子育て世代の交流の場としての役割も果たしており、図書館が地域コミュニティを支える場となっていることがうかがえます。幼少期からの読書習慣の形成は重要であると考えられることから、今後も継続した環境整備や読み聞かせ活動等の充実に取り組んでいただき、子どもたちが自発的に本へ親しむことのできる図書館となることを期待します。

また、郷土行政資料の収集・保存・デジタル化や、電子書籍、大活字本の充実などは、市民が地域の歴史や文化に触れる機会を広げる重要な取組であり、今後もさらなる充実と周知を期待します。一方で、資料展示や情報発信の工夫など、本に興味を持つきっかけづくりについては、引き続き工夫が必要であると考えます。

フロアワークボランティアや地域団体、大学、企業等との連携による取組は、図書館を身近に感じられる工夫として評価できるほか、「図書印旅」や各種イベント、「出張！図書館」、「移動図書館」などのアウトリーチ活動についても、図書館利用のきっかけづくりや、新たな利用者層へのアプローチとして有効であったと感じます。

一方で、成果指標については、新規利用登録者数や入館者数、児童・中高生の貸出冊数など、目標を下回る項目も見受けられました。特に、新規利用登録者数の減少については、若年層や未利用者へのアプローチ、情報発信の強化など、要因分析と改善に向けた取組が必要であると考えます。

さらに、司書体制や専門性向上、多様な利用者への対応、エアコン設置をはじめとした利用環境の整備について、引き続き検討を進めていただきたいと考えます。

総評並びに以下に記載する各委員の意見のまとめのほか、アンケート記載の利用者意見等を参考に、更なる図書館運営の充実に努めてください。

「基本目標１　基礎的な図書館サービスの充実」について

【評価する点】
・課題に対して現状維持にとどまらず「今後の動向・ニーズに日々対応していきたい」「さらなる魅せ方を模索していきたい」という積極的かつ継続的な改善が見られ、非常に質の高い図書館運営が行われていると評価できます。特に「1-4 図書館という空間の魅力向上」は工夫した取組が行われていてよいと思います。
・電子書籍や大活字本の充実は、活字文化に馴染みにくい方々への「情報アクセスの入り口」を広げる重要な取り組みであると考えます。また、デジタル機器を通じた情報提供は、スマホ世代の障がいのある方々にとっても図書館を身近な存在にする可能性を持っており、バリアフリーの観点からも高く評価できる施策であると感じます。
・来館者を増やすために様々な取り組みをしていて素晴らしい
・「赤ちゃんと楽しむ絵本ひろば」は母親にも読み聞かせの良さが伝わり、また、終了後、交流の場としていることで子育て中の母親の居場所になっている。
・セルフ貸出機は簡単で便利です。みなさんにもっと知ってもらいたいです。

【改善を要する点】
・郷土行政資料について、積極的に電子図書館のコンテンツとして登録したと自己評価しているが、蔵書冊数が R5 から約 1198 冊増えているのに対し、デジタル化点数は 188 冊の増加に留まっている。 新規の蔵書は原則としてデジタル化する等の取組みに期待する。
・郷土資料のデジタル化について、もっと多くの方に知っていただくような取組があるとよいのではないかと思います。
・デジタル化もこれからは必要なのかとしれませんが、古い物をそのまま保存すること、それを見ることができるということに意味があると感じますので、両立を図ってほしいです。
・アンケートにもありましたが、セルフ貸出機の周知
・苫小牧市でも夏は非常に暑くなっています。学生さん達が学習しやすいように是非エアコン等を設置していただきたいです。
・施設面での要望がアンケートの中にあったが、階段の手すりやトイレ、冷房など費用に課題は残ることとは思うが、自習室のエアコン設置はぜひやってもらいたい。

「基本目標２　家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」について

【評価する点】
・レファレンス件数が目標値のほぼ倍に伸びていることは、レファレンスが図書館の役割の中核部分であり評価できる。レファレンスは本の貸し出しにとどまらず、市民の「知る権利」を保障するもので、課題解決を支援するための最もコアな機能でさらに進めてほしい。
・フロアワークボランティアが増加し、その結果としてレファレンス受付件数も増加している。市民との協働と利用者へのサービス向上の両立が図られていることは大いに評価に値する。
・レファレンスサービスはとても良いと思います。もっと充実していくことで図書館の利便性が上がると考えます。
・地域の団体や企業との連携、イーグルスとの走り方教室など本に興味がない子でも来館できる工夫をしていること

【改善を要する点】
・イベントが好評だったので、イベントに来た方をリピーターにする、また、これまで図書館に来なかった方に向けたイベント等を更に充実させるとよいと思います。
・図書館機能として「レファレンスサービス」を重視するのであれば、言葉による相談が難しい方への支援についても、さらなる充実というか、工夫が期待されます。
例えば、視覚障害や聴覚障害の方への対応というのはもうすでにあると思いますので、フローチャートのようにして、「今、興味があることは？　旅行、スポーツ、動物、花、etc」という始まりから、３つ４つフローチャートを進んでいくと、「今のあなたは、これを手にしてみては？」と、その時おすすめの本が 3 冊くらい紹介してもらえる等です。

「基本目標３　教育的役割を重視した取組の推進」について

【評価する点】
・乳幼児からヤングアダルト、そして一般人に至るまで、ライフステージに合わせた多角的な読書推進活動が展開されていること、また、市内大学との連携も進められており、非常に質の高い図書館運営が行われていると評価できます。
・乳幼児から学生まで、世代に応じたイベントや工夫された館内装飾は、図書館に「楽しさ」という付加価値を与えていると感じます。また、地域団体との連携を通じて、単なる学習の場にとどまらないコミュニティの拠点として、教育的役割を超えた「地域の居場所」を作ろうとする熱意が伝わってきます。
・「市内ボランティア活動の周知」ボランティアによって誰でも図書館と主体的に関わることができると知ってもらえる。
・子どもの読書活動の推進の事業は評価できる。読書離れが言われる昨今、幼稚園や学校などとの連携をより強化して読書環境を整えたい

【改善を要する点】
・大学との連携の講座の参加者が増えるように取組が進められるとよいと思います。
・今はスマホなどで調べものができることや、電子で本を読むことができるが、やはり、紙で、本を手にとって読むために図書館へ行くということが子供にとって大切なことだと感じます。たくさん本を読んだ子供は大人になっても本にふれることが多いと思います。
・市内大学との連携で開いた講座についてはPRの工夫が必要ではないか。ホームページや市のメールに載せるだけでなく、ターゲットとする年代層が目に付くような場所にポスターやパンフレットの配布など、図書館を利用する団体と連携したPRの仕方を考えてはどうか。

「基本目標４　魅力的かつ効果的・効率的な運営体制の構築」について

【評価する点】
・「出張！図書館」「郷土に関する研修」「まちライブラリー」など、意欲的なイベントを行い、図書館を近い存在にし、本に触れる取り組みを増やそうとする方向性は評価できる。
・職員の研修がしっかり行われ、利用者満足度が 95%を超える高い値となっていることは大変素晴らしい。
・SNS での情報発信や、移動図書館「まなぶん」によるアウトリーチ活動など、施設の外へ積極的に働きかける姿勢を高く評価します。
・美術博物館の学芸員を迎え入れると同時に図書館から司書を講師として相互に派遣するという新たな試みは、双方の専門性が融合するという従来の枠組みを超えた素晴らしい試みである点が評価できる。

【改善を要する点】
・「新規利用登録者数」「貸出冊数」「入館者数」などが軒並み対目標値を下回っている。なぜ新しい利用者を獲得できていないのかという経営的な分析が必要だと思う。若年層への働きかけ、新住民へのアプローチの取り組みを見直す必要があるだろう。
・web アンケートは準備中ということなので、できるだけ早期に始められるよう準備を進めていくとよいと思います。
・一方で、図書館は「調べ物をする人」だけでなく、静かに安心して過ごしたい精神障がいのある方々、誰かと一緒に活動したいわけではないが、人の気配を感じながら地域との繋がりを感じながら過ごしたい人たちにとっても、大切な利用の場であると考えます。そのため、職員研修等において、見た目ではわかりにくい特性への理解を深め、誰もが「ここにいて良い」と感じられるような接遇や環境づくりについて、さらなる充実を期待します。また、熱中症対策として、高齢者・児童が多く利用する図書館にはエアコンは今後必須かもしれません。